HTLV-Ⅰ母子感染調査

研究班
担当　母里啓子，荒堀憲二，衛藤　隆

〔はじめに〕

昭和63年度の本研究班の研究成果から、研究協議会は、HTLV-1母子感染の頻度を明確にする必要性があること、このためには班としてHTLV-1キャリア妊婦から出生した児の長期追跡調査を行う必要があることを確認した。これを受けて、研究班事務局は「ＨＴＬＶ－１母子感染調査票」（以下「個票」）、「授乳法別ＨＴＬＶ－１母子感染調査票」（以下「Ｂ票」）を作成し、昨年度より主任研究者名で調査を開始した。本年度の結果について報告する。

〔方法〕

昭和60年1月1日以後にHTLV-1キャリア妊婦から出生した児で、少なくとも１歳まで定期的な追跡が可能であった児（以下対象児）を調査対象とした。

分担研究班のうち、疫学研究班の6名、予防対策研究班の7名、保健指導研究班の13名の各班員計26名に以下の調査票を送付し、記入・回収を依頼した。

対象児１例ごとの出生後のHTLV-1抗体および抗原等の結果を記入する書式の個票（図１）と１施設で追跡している対象児を授乳法別にまとめ、追跡期間ごとにHTLV-1抗原、抗体を獲得もしくは消失した例数を記入する書式のＢ票（図２）を作成した。可能な限り、個票にて回答していただくことを原則とし、症例数が多い等、やむを得ない事情がある場合に限り、Ｂ票で回答していただいても良いこととした。

平成3年2月20日までのデータを研究班事務局にてとりまとめた。

〔成績〕

1．個票は8施設より送付され、計589例の個票が回収された（生後数年を経過して初めて検査された症例も多かったが、これも集計に加えた。しかし殆ど情報の得られていない個票は集計対象から除外した）。

回収された589例の栄養法別を表１に示す。

2．生後１年以上追跡しえた症例で、最終検査までの抗体の出現状況を見ると、表２の様なパターンが認められた。ＣとＥは、生後１年未満の時点での抗体検査結果が得られなかった症例が属す群である。

3．表２のＡ、Ｂ、Ｃ群が児にHTLV-1が感染し満1歳以後の時点でHTLV-1抗体陽性の症例であり、合計で49例（10.1%）であった。これを栄養法別にみると、表３の追跡期間1年以上1年6ヵ月未満の行に示されるごとく、人工栄養で324例中22例（6.8%）、母乳栄養で106例中19例（17.9%）、混合栄養で 33例中6例（18.2%）であった。表３は追跡期間別に各栄養法グループごとのHTLV-1抗体陽性率を示したものである。

4．表４に母乳継続期間とHTLV-1抗体陽性率の関係を示す。母乳継続期間が6ヵ月を越えるとHTLV-1抗体陽性率が上昇し、またその期間が長くなるほど陽性率が高くなる傾向を示した。

6．Ｂ票は３施設から送付され、栄養法別追跡

表１　栄養法別HTLV-1母子感染調査票集計

栄養法	回収数	(%)
人工栄養	399	67.7
母乳栄養	113	19.2
混合栄養	35	5.9
その他	4	0.7
不明	38	6.5
合計	589	100.0

表２　栄養法別HTLV-1抗体検出パターン

		A	B	C	D	E	合計
抗体出現状況	1歳未満	+	+	ND	+ or −	ND	
		↓	↓	↓	↓ or ↓	↓	
	1歳以後	+	+	+	− or −	−	
栄養法	人工栄養	14	6	2	289	13	324
	母乳栄養	3	1	15	18	69	106
	混合栄養	3	0	3	14	13	33
	その他	0	0	0	2	0	2
	不明	0	0	2	8	11	21
小計		20	7	22	331	106	486
合計		49 (10.1%)			437 (89.9%)		486 (100%)

注：　ND は抗体検査未施行

表３　追跡期間別栄養法別HTLV-1抗体陽性率

栄養法 / 追跡期間	人工栄養	母乳栄養	混合栄養	合計
1年未満	47 / 67 (70.1%)	5 / 7 (71.4%)	2 / 2 (100%)	54 / 76 (71.1%)
1年以上 1年6ヵ月未満	22 / 324 (6.8%)	19 / 106 (17.9%)	6 / 33 (18.2%)	47 / 463 (10.2%)
1年6ヵ月以上 2年未満	11 / 132 (8.3%)	18 / 88 (20.5%)	3 / 20 (15.0%)	32 / 240 (13.3%)
2年以上	8 / 101 (7.9%)	17 / 81 (21.0%)	3 / 19 (15.8%)	28 / 201 (13.9%)

注：　HTLV-1抗体陽性例数／追跡症例数　(HTLV-1抗体陽性率)

期間別のHTLV-1抗体陽性率は表５に示される通りである。

〔考察〕

本調査の回収率は個票で33%、Ｂ票で13%で、全国の状況を知るには十分な回収率とはいえないが、本調査で示されたHTLV-1抗体陽性率や、陽性率の追跡期間や母乳継続期間との関係は、今年度の総会で議論された内容と、概ね一致している。

追跡期間とHTLV-1抗体陽性率との関係については、表３に示されるように、1歳以後で母乳栄養の場合17.9～21.0%、混合栄養で15.0～18.2%、人工栄養で6.8～8.3%であった。母体からの移行抗体の影響が明らかに消え去ったと考えられる生後１年以降のHTLV-1抗体陽性率が、児の感染状況を示していると考えると、各栄養法グループのHTLV-1抗体陽性率は追跡期間が長くなってもあまり大きな変化を示していない。

表４に示されるように母乳継続期間が6ヵ月未満の場合にはHTLV-1抗体陽性例は出ていないことは注目に値する。

〔おわりに〕

これらの大変貴重な追跡調査は、わが国におけるHTLV-1母子感染の実態を明らかにする上で、今後とも継続されることが強く望まれる。今後とも今年度までの班員諸先生の一層のご理解とご協力をお願いする次第である。

表４　母乳継続期間とHTLV-1抗体陽性率

栄養法 母乳継続期間	母乳栄養	混合栄養	合　計
0 - 3ヵ月未満	1 / 9 (11.1%)	1 / 9 (11.1%)	2 / 18 (11.1%)
3 - 6ヵ月未満	0 / 14 (0.0%)	0 / 10 (0.0%)	0 / 24 (0.0%)
6 - 12ヵ月未満	4 / 34 (11.8%)	1 / 3 (33.3%)	5 / 37 (13.5%)
12 - 18ヵ月未満	6 / 29 (20.7%)	0 / 1 (0.0%)	6 / 30 (20.0%)
18ヵ月以上	5 / 11 (45.5%)	1 / 2 (50.0%)	6 / 13 (46.2%)

注：　HTLV-1抗体陽性例数／追跡症例数　(HTLV-1抗体陽性率)

表５　栄養法別追跡期間別HTLV-1抗体陽性率（３施設からのＢ票の集計）

栄養法 追跡期間	人工栄養	母乳栄養	混合栄養
0 - 1歳未満	- / 414 (-)	- / 25 (-)	
1 - 1歳6ヵ月未満	1 / 286 (0.3%)	0 / 21 (0.0%)	0 / 2 (0.0%)
1歳6ヵ月 - 2歳未満	2 / 149 (1.3%)	0 / 17 (0.0%)	0 / 2 (0.0%)
2歳 -	7 / 77 (9.1%)	1 / 16 (6.3%)	0 / 1 (0.0%)

注：　HTLV-1抗体陽性例数／追跡症例数　(HTLV-1抗体陽性率)

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔はじめに〕

昭和 63 年度の本研究班の研究成果から、研究協議会は、HTLV-1 母子感染の頻度を明確にする必要性があること、このためには班として HTLV-1 キャリア妊婦から出生した児の長期追跡調査を行う必要があることを確認した。これを受けて、研究班事務局は「HTLV-1 母子感染調査票」(以下「個票」)、「授乳法別 HTLV-1 母子感染調査票」(以下「B 票」)を作成し、昨年度より主任研究者名で調査を開始した。本年度の結果について報告する。